

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	横浜市立樽町中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	7	7	2	22	38
生徒数	231	259	267	3	760	

研究の概要

1. 研究主題

<p>・主題(テーマ) 「個に応じた学習指導のあり方」 ～子ども一人ひとりの実態に即したきめ細かな指導の一層の充実～</p> <p>・テーマ設定の趣旨 学習の習熟度が子どもによって違うという現状を踏まえ、教科の特性を生かしながら、個々の子どもに適したきめ細かな指導を行えるような体制づくりをし、教材の開発を行うために上記のテーマを設定した。</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>第1・2・3学年 数学 第1学年 英語 昨年度までのT・Tや少人数制の授業の実績から、継続的に実施し、より一層効果的に授業を進めるため</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「個に応じた学習指導のあり方」 ～子ども一人ひとりの実態に即したきめ細かな指導の一層の充実～</p> <p>研究の見通し 習熟度別で少人数制の授業を実施することにより、個に応じたきめ細かな指導を行う。それにより、生徒の学習意欲が向上し、確かな学力を身に付けることができる。</p> <p>研究の内容・方法 ・数学、英語を中心として、少人数指導「習熟度別学習」の研究を深める。 ・数学、英語の指導計画を立てる。 ・数学の教材開発を進める。 ・研究の成果について中間のまとめをする。 ・生徒の基礎学力の検証を行う。 ・次年度の課題を明確にする。 ・中間報告書を作成する。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「個に応じた学習指導のあり方」 ～子ども一人ひとりの実態に即したきめ細かな指導の一層の充実～</p> <p>研究の見通し 習熟度別で少人数制の授業をより一層推進することにより、個に応じたき</p>
--------	---

め細かな指導を行う。それにより、生徒の学習意欲が向上し、より効果的に確かな学力を身に付けることができる。

研究の内容・方法

- ・数学、英語を中心として、少人数指導「習熟度別学習」の研究をより一層深める。
- ・数学、英語の指導計画を立て、教材開発を進める。
- ・理科の少人数制の授業を視野に入れた研究を進める。
- ・生徒の学力の検証を行う。
- ・2年間の研究をまとめ、成果と今後の課題を整理し報告書を作成する。

### (3) 研究推進体制

校長、副校長、教務主任、教育課程委員会（各指導部会代表、教務部代表、教科主任会代表）、教科主任会、各教科会

平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

数学

##### 【生徒へのアンケートを集約】

<一学期の少人数制の学習を終えて>

（アンケートを2年生全員（7クラス）7月中旬実施）

一学期の少人数制を行って、自分が向上したと感じたことは何ですか。

（生徒の解答）

- ・計算のスピードがついたので良かった。
  - ・問題を解く楽しさを覚えた。
  - ・基礎がよくできるようになった。
  - ・計算が苦手だったのに、できるようになった。
  - ・1クラスの生徒が少ないので、質問がたくさんできて良かった。
  - ・できない問題（応用問題）をたくさんやれたので良かった。
  - ・計算ミスが少なくなった。
  - ・わからないところを、わかるまで自分で解けるようになった。
  - ・時間はかかったけど、応用問題が解けるようになった。
- （教科担任の意見）  
生徒は少人数制の授業で質問がしやすくなったり、計算力がつくように感じたり、以前より理解できたように感じていることが、とても良いと思う。

英語

（教科担任の意見）

- ・生徒の発話量が増えた。  
テンポ良く授業を進行でき、発話チェックの機会が増えた。また、個別の「発話テスト」の時の生徒の待ち時間が少なくなり、一人ひとりの発話量も増えた。
- ・英作文での個別対応が増やせた。  
生徒一人ひとりが、自分にあった英文を作る学習活動（英作文レース）で、個人への発話をチェックする際に、一斉授業ではどうしても待ち時間が多くなってしまいが、少人数制により短時間での実施が可能になり、「英作文での個別対応」を実践する機会を増やすことができた。
- ・授業時間外でのサポートがやりやすくなった。  
（放課後の補習テスト会場の設定等）  
練習用の Room A と受験用の Room B の2会場を設定し、それぞれの会場に担当の教員を配置して、生徒の学習を有効に指導する事ができた。  
<Room A>：練習用の部屋
  - ・教員のアドバイスを受けながら、繰り返し練習する。
  - ・各自で十分に練習し熟練したと判断したら、Room B に移り受験する。<Room B>：受験用の部屋
  - ・個別のテストを採点し、すぐに生徒に結果を知らせる。

合格者	Room Aに結果を報告し、帰宅する。
不合格者	Room Aに結果を報告し、指定された回数を練習し帰宅する。

## 2. 今後の課題

<p>教材開発 . . . (数学・英語) 習熟度が違う生徒に対するプリント等の教材開発を継続的に行っていく必要がある。</p> <p>評価 . . . (数学・英語) 授業内容が違う生徒に対しての定期テスト問題の内容を検討する必要がある。また、授業中における評価の方法の検討が必要である。</p> <p>単元の内容による指導法 . . . (数学) 演習問題の取組には適しているが、理論的なものを理解しなければならない単元では「子ども一人ひとりの実態に応じた、きめ細かな指導の一層の充実」という趣旨を生かせる場面を、できるだけ増やしていくことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の取組に適している単元 . . . 式の計算等</li> <li>・生徒の取組に工夫が必要な単元 . . . 図形、関数等</li> </ul> <p>T・Tから少人数制への移行の検討 . . . (理科) ・T・Tと少人数制における双方の利点を検討し、少人数制の授業の実施に向けて検討して行きたい。</p>
--

### 学力等把握のための学校としての取組

<p>校内定期テストの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期中間テスト(5月中旬)</li> <li>・1学期期末テスト(6月下旬)</li> <li>・2学期中間テスト(10月上旬)</li> <li>・2学期期末テスト(11月下旬)</li> <li>・学年末テスト(2月下旬)</li> </ul> <p>横浜市診断テストの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月上旬</li> </ul> <p>単元別の確認テストの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習項目の確認テストの結果を分析し、学習内容の定着率等を調べ、指導方法に生かす。</li> </ul>
--

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年2月16日(月) 第4回横浜地区学力向上推進連絡協議会にて実践事例提案
--

- 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)
- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】             3学級以下                     4～6学級  
                                7～9学級                      10～12学級  
                                13～15学級                  16学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                  T・Tによる指導  
                                その他
- 【研究教科】             国語             社会             数学             理科  
                                外国語         音楽             美術             技術・家庭  
                                保健体育     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有             無